新書紹介

地球にやさしい生活術

ジョン・シーモア／ハーバード・ジラード著

TBSブリタニカ　A4判変形　二一一ページ　一、五〇〇円

地球環境の破壊に一般の関心が高まり出したのはそう古いことではない。ところが、私たちの身の回りでは、生活環境を脅かすようなさまざまな問題が次々ともちあがってきている。光化学スモッグ、アスベスト粉じん、ゴルフ場農薬汚染、河川や湖沼の富栄養化、フロンガス、酸性雨、熱帯林の消滅、砂漠化、地球温暖化・・・。中には用語辞典のお世話にならなければサッパリ分からないというものまである。よく分からないということもあって、こういった問題の解決は、有能な専門家や企業、政府にまかせておけばよい、と考えている人が少なくない。

果たしてそれでいいのだろうか、というのがこの本の基本的な姿勢である。副題は「緑の惑星を守るために、あなたが今日からできること。」つまり実践のための本である。

地球的規模の環境破壊に対して、個人の力はあまりにも小さいように見える。著者はここで個人の責任を問題にする。「われわれは自分が行ったこと、あるいはおこなわれなかったことについて全責任を負っている」のではないかと。このあたりの厳しさは、個人の責任をあいまいにしない西欧人ならではの発想だろう。そして、「その危険を認識し、それを避けるために、各自ができることをきちんとやれば、人類は種としてこの惑星に住み続けることができる」と断言する。その意味では、この本は「希望の書」でもある。

著者は二人ともエコロジストで、そのうちの一人ジョン・シーモアは五十年以上にわたって、アイルランドで自由な田舎暮らしをしてきた実践家。そのためか、厳しさの反面、いき過ぎた完璧主義をも戒めている。われわれは不完全な人間だ。常にうまくいかないからといって絶望する必要はない、と。

この本の全体構成をみると、地球環境を守っていくにあたって考えなければならない課題を、水、農業、食糧、ゴミ、薬品、有害物質、化学肥料、自動車などの項目に分けて紹介している。それぞれの項目ごとに、現状とその原因、そして実践の方法が専門用語や数式などを使わずにやさしい言葉と絵をふんだんに使って書かれてある。

この本はあくまで、一人ひとりがなすべきことについて書いた本だ。そのため、各項目ごとに「今すぐ始めよう」というコラムが設けられ、具体的な実践方法が紹介されている。例えばプラスチックのゴミを減らすためには、「パック済み生鮮食品を買わないようにしよう」「テイクアウト食品のプラスチック容器を拒否しよう」「天然素材でできた衣料を選ぼう」「台所の使い捨てのプラスチックを避けよう」といった具合だ。これらは、著者の長年の生活体験からくる提案だけに、大変説得力がある。

中でも私にとって新鮮に思えたのは、物事を地域レベルでまさせるようにしようという「地域主義」の提案だ。私たちの経済はスケールメリットを重視するあまり、地域経済を打ちこわし、汚染の元凶であるトラック輸送に頼るようになってしまったというわけだ。トラック輸送は「地球の乏しい資源を大量に使い果たし、はてることのないゴミと騒音と混乱を生み出し、美しい田園地帯をどんどんブルドーザーで踏みならし」てしまった。そして、実態はどうかといえば、「まるっきり同じ製品が高速道路の上を正反対の方向に移動」しているのにすぎないではないか、と説く。さらに、原産地から遠い場所で売られる加工食品には、輸送途中で商品価値を下げないように、さまざまな化学薬品が添加されるようになった。昔は「傷む食品だけが食品」といわれていたが・・・。

では、どうすればよいのか。できるだけ住んでいる所の近くでできた食品を買うこと。それは、食品添加物などを使わない新鮮な食品であり、同時にムダな貯蔵や配送の手間が省け、エネルギー、燃料、間接費を節約したものとなるわけだ。それでは経済が停滞してしまう、という意見に対しては、明快で痛烈な回答をしている。

「われわれ全員が貧乏になっても、美しく健康な地球に暮らす方が、死にかけた地球に暮らす億万長者になるよりは、はるかにましだろう」

この本は気軽に読みこなすのには、少々骨が折れるボリュウーム。だが、読み終えた後は、この美しい惑星を子どもたちに伝えていくために、自分にも何か出来ることがありそうだ、と勇気がわいてくる本である。

△市民局　白井誠治▽